

秋吉台パークボランティア 第59号 1-15、2011

秋吉台パークボランティアの会 会長 木島忠興
事務局 美祢市秋芳町秋吉広谷 カルスト学楽舎
Tel. 0837-62-0400、 FAX. 0837-62-0400

明けまして おめでとうございます

卯年がスタートしました。皆様、健やかな新年をお迎えになられたこととお喜び申し上げます。

毎年、お正月には、これだけはやりたいと大きな夢をかけて、計画をたててきました。しかし、なかなか計画の実現は容易ではなく、困難でした。

そこで、秋吉台パークボランティアの会の社会的役割を考えて見たいと思います。原点を考えるのに都合がよいからです。

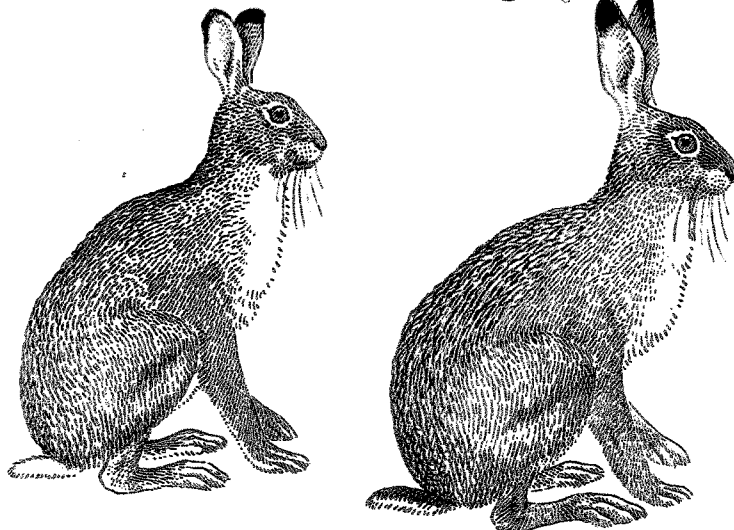
市町村合併で、美祢市が誕生して、「秋吉台の現状」を概観してみると、なんとも下降線を描きながら無気力な無風状態が続いています。

秋吉台の 学術研究や地域文化の育成策も不十分、観光客の減少を他人事のように傍観する日々が続いています。

私たちは 11 年前に、秋吉台の保全や修復を行うことで、観光客に美しい自然を堪能していただくことを目指しました。そして今、苦しみながら夢中で秋吉台の傷口を癒しています。

一昨年 of 歩道修復事業、昨年 of エコツアーの実績はみごとで、秋吉台の縁の下をしっかりと支えています。

今年は、秋吉台の文化遺産の発掘と保存に乗り出してはいかがでしょう。これはそのまま観光資源として役立ちます。皆様のご意見を聞かせてください。



(木島忠興)

秋吉台文化財の保存（1）

秋吉台はこれまで、いろいろな形で利用されてきた。エコツアーで台を歩くと、その利用に係わる様々な碑や水溜などが見つかる。私たちは文化財として保全すべきかどうかを考えてきた。これからは、真剣に議論し、文化財として保全すべき物は保全策を講じるよう働きかけてゆくべきだと思う。

今年は放置されてきた秋吉台の文化財を掘り起こし、新しい光を当てる文化財元年にしたいと思うがいかがでしょう。

まず、旧陸軍演習場関係の資料を探してみたいと思う。過去4年間私たちは「秋吉台は昔、陸軍の演習場だった」というエコツアーを実施してきた。最初は妙見原の「平和と観光の塔」から姫山一帯（水溜や塹壕）を歩き、午後は忠魂碑から西山の尾根を通過して、展望台に帰るコースが選ばれた。しかし、年々コースを変更し、観察地点を増やしていった。

昨年は長者が森から姫山（塹壕、水溜め、盛り土など）、昼食は展望台前、午後には忠魂碑、長登の兵舎にまで足を伸ばし、沢山の方々と楽しんだ。

こうして、調査をしながら陸軍が演習に使った遺跡をたどってゆくと、放置するのがおもしろいものがたくさん出てきた。重要な物は演習地としての文化財になる。

こういった遺跡や遺物を並べてみると、次のようなものをあげることができる。

旧陸軍演習場関係

碑1 忠魂碑

碑2 〇氏の死亡碑

碑3 演習場の標識（冠山北）

碑4 演習場の標識

碑5 平和と観光の塔

水溜1 西山

水溜2 姫山

水溜3 冠山 水なし

水溜4 若竹山 消失

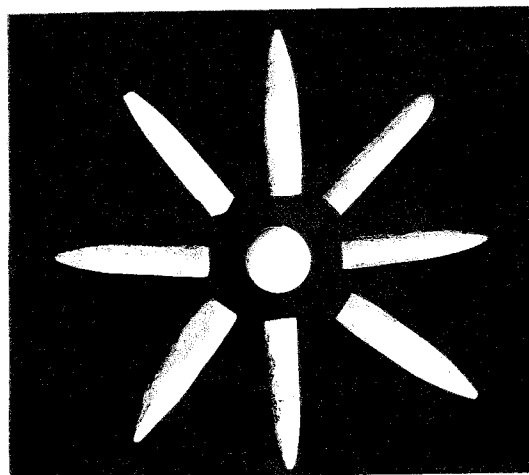
水溜5 帰り水 水なし

目標地の土盛

兵舎 長登

水タンク（樽）兵舎用

塹壕 秋吉台上に拡がっている。



兵舎を見たとき、私の通った国民学校の校舎や便所を思い出した。木造の校舎は、広々としていて、便所は並んで、何人もが同時にできる殺風景なものであった。同じものが長登の兵舎に残っていた。戦前の建物は、今にもぐずれ落ちそうな情けない姿で残されていた。

秋吉台パークボランティアの会が実施した「平成 22 年のエコツアー」

私たちのパークボランティアの会は、秋吉台地域エコツアーリズム協会のエコツアーで、中心的な存在として、活躍している。協会の目標は、秋吉台観光の再興を目指して、時代に合った観光のあり方を探り出し、実践してゆくことだった。だから私たちは平成 19 年度から 3 年間、じっくりと実験的なエコツアーを実践して、どんどん進化させ、大きな成果をあげてきた。ここでは平成 22 年度に実施したエコツアーを振り返り、成果を紹介し、更なる発展の方向を見極めたいと思っている。

実施したエコツアー一覧 募集定員 20 名
参加料 2000 円（昼食料・保険料・資料代・記念写真代を含む）

- 1) 3 月 23 日「秋吉台は昔陸軍の演習地だった」参加者 20 名（うち県外 3 名）
- 2) 4 月 18 日「秋吉台の岩石から 3 億年の歴史を探る」参加者 15 名（県外 2 名）
- 3) 6 月 6 日「吉田松陰の道を歩き、ムラサキなどの野草を楽しもう」参加者 26 名（県外 2 名）
- 4) 7 月 25 日「中尾洞探検、黒岩湧泉の観察、草原のクモをさぐる」参加者 13 名（県外 4 名）
- 5) 「弁天池とヒキの森、蛇の森探訪」参加者 15 名（県外 4 名）
- 6) 「カルストの絶景を堪能し、アキヨシアザミやアケビと遊ぶ」参加者 9 名。
- 7) 秋吉台八景を探る。（1）出来水ウバーレを訪ねる。参加者 22 名。
- 8) 石灰岩はどの様に利用されたか。参加者 15 名

参加者総合計 126 名
1 回平均 15.8 人

参考資料

年度	実施回数	総合計	1 回平均
平成 20 年度	7 回	102 人	14.6 人
平成 21 年度	7 回	128 人	17.6 人
平成 22 年度	8 回	126 人	15.7 人

1) 準備（インタープリター）

コースを数回視察、調査を実施し、案内の項目や討論項目を決める。その上で、このコースや体験スケジュールを紹介したチラシを作り、配布する。

2) コースの草刈り

予定日が近づくと、コースに沿った道の草刈りをする。

3) 昼食準備会議（献立を決め、旬の食材を集める）

4) 当日のためのガイドの資料を作る。

5) エコツアーを実施する。

記録写真や記念写真を撮る。

昼食をつくり、昼食場に持参。食後のデザートを用意。休憩時のための自家焙煎コーヒーを用意。

アンケートをとる。

6) 実施後エコツアーの目的と話合った内容を記録した資料を作り、記念写真と共に参加者に送る。

参加者との交流を深め、楽しいツアーにする。体験内容を深める工夫をする。自然や歴史の深層を議論する。

